



行楽客の置きみやげを処理する
観光施設管理公社職員

美しい自然はみんなのもの ゴミ公害から 日光を守ろう

日光の美しさは、自然と人工のもたらす調和の美しさだとよく言われます。広々とした湿原にあたり挟しと花を咲かせる戦場ヶ原。白樺が風にそよぐ光徳。湯滝から流れる湯川沿いの景色などは、まさに自然そのものです。しかし、その美しい自然の足元

飲食店も環境美化に協力

日光では毎日のように林間学校が開設されたり、団体のハイカーが自然を楽しんでいる光景が見られます。その人たちの弁当は、ほとんどが市内の飲食店で作られています。弁当を届けたお店の人

を見て驚くことがあります。笹や高山植物の根元は、紙くずや空きカン、タバコの吸い殻、食べ残しの弁当などが捨てられていて、ひどいところでは、それらが山積みされて悪臭をはなっているのです。まさにゴミ公害です。ゴミの多い所は、やはり行楽客の立ち入る湯川、青木橋、泉門池、

小田代ヶ原、赤沼、三本松、西の湖、光徳、華厳の滝、霧降高原などの景勝地です。湯元地区にゴミが少ないのは、自治会が常時清掃活動をしているからでしょう。また、湯元を起点とする登山道がいくつもあります。登山者は一般行楽客と違ってゴミなどは捨てません。

山が見られます。

食べ残しの弁当は腐り、悪臭をはなち、野犬やカラスのえさとなります。自分たちが食べた始末のできない人たちも悪いでしょう。弁当が回収されない場合は、リュックサックに入れて持ち帰る心がまえが必要です。

見おとせない奉仕団体の活躍

日光の観光地を守るために活躍しているのが、日光市観光施設管理公社の人たちです。環境美化清掃(ロードパーカー)車をフル運転し、心ない行楽客の置きみやげを回収しているのです。集めた観光廃棄物は、燃える物と燃えない物に選別し、焼却場へ直行します。

数回清掃奉仕を行い、環境美化に貢献しています。

しかし、この広大な日光では、環境美化清掃車一台ではどうにもなりません。それを、ボランティアの奉仕活動がおぎなっているのです。ゴミ公害から観光地を守るうと、婦人会やライオンズクラブ、山岳連盟などの各種団体は、年に



心ない行楽客が捨てていった
空きカンや弁当などのゴミの山

ゴミ持ち帰り 運動の推進を

自然の美しさを求めるのは、人間だれしも同じです。日光に来られる行楽客や釣り人はますます増えていくでしょう。観光客が増えるのと同じく、ゴミが増えるのは困ります。

そこで、観光地も自分の家も同じと考え、ゴミは持ち帰ることが大切です。キャラメルや紙一枚、タバコの吸い殻一本捨てないようにしたいものです。

観光地に行くときは、必ずビニール袋を用意して、自分たちの出したゴミは自分たちで処理することです。一人一人の心がけで、自然はいつまでも美しさを保ちます。ゴミは必ず持ち帰ることにし、よそから来た人たちにも指導しましょう。